

こ
ん
に
ち
は

し も す わ 町 議 会

で
す

十二月定例会

平成27年12月定例会は、12月3日から12月17日までの15日間の会期で開催されました。一般質問は、12名が行いました。「下諏訪町税条例等の一部改正」や「平成27年度一般会計補正予算」など20議案を審議し、また「下諏訪町議会広報特別委員会」「下諏訪町基本構想審査特別委員会」が設置されました。

目次

主な議案と審査内容	2
議決結果	3
一般質問	4
陳情、意見書	10
教育委員との懇談会	11
視察研修報告	12
ニュージーランド視察報告	14
議員学習会ほか	15

VOL.10 平成28年(2016)1月22日

編集／広報特別委員会 発行／下諏訪町議会

電話(0266)27-1111 FAX(0266)27-1237

<http://www.town.shimosuwa.lg.jp/gikai/index.html>



四王では「おんばしら館よいさ」展示用の曳綱を伝統の技で藁から撚り上げた

併用林道協定で星ヶ塔遺跡の 管理などが都合よくなります

旧奏鳴館、日本電産サンキョーへ

常任委員会付託議案審査報告

総務経済常任委員長 中村 光良
生活文教常任委員長 青木 利子

議案第63号・68号について

ともにマイナンバーに関わるもので、法定利用事務で個人ナンバーを利用するにあたり、必要となる事項を条例として制定する。また様式を変更するもの。

《賛成討論》

・国の法律に沿った条例制定である。

・「法定利用事務」で個人番号を利用するにあたり、必要不



2 常任委員会で現地視察

可欠な条例。

《反対討論》

・個人番号で管理されることに反対。

・情報漏洩の不安が払拭されて

いない。

《採 決》 挙手多数で可決。

議案第66号 下諏訪町議会の

議決に付すべき事件に関する条例の一部を改正する条例について

議案第72号 下諏訪町星ヶ塔遺

跡管理道の認定について

この二件は、併用林道に関するもので、今回の条例の一部改正は、今年3月に国史跡に指定された「星ヶ塔遺跡」の、今後の維持管理等について、所有者である「中部森林管理局」及び実質的な管理者である「南信森林管理署」との協議の中で、「併用林道協定」を締結することが望ましいことから、本条例に「国有林林道を管理道として併用するための認定、変更及び廃止に関すること」を議決事項として追加するもの。これを受けて星ヶ塔遺跡管理道を併用林道として認定するもの。

《賛成討論》

・下諏訪町にとって貴重な国指定を受け、中部森林管理局の協力に感謝し、本条例に追加することに賛成。

・すばらしい遺跡である。林道を利用できることはよい。

《採 決》 挙手全員で可決。

議案第69号 下諏訪町観光施設に関する条例の一部を改正する条例について

平成27年11月30日をもって、株式会社エム・アイ企画による諏訪湖オルゴール博物館「奏鳴館」の指定管理を取り消し、日本電産サンキョー株式会社が、

普通財産を有償で借受け、施設の管理・運営を全面的に行うこととなったための条例一部改正。

《採 決》 挙手全員で可決。

議案第77号 平成27年度下諏訪町一般会計補正予算第7号

【総務経済常任委員会】

・地方交付税の確定額約2億700万円、減債基金繰入金6,900万円、臨時財政対策債の確定額約5,000万円や繰越金補正により、交付税措置のない町債の繰上償還3億8,600万円。

・財産収入83万3千円は日本電産サンキョーからの4ヶ月分

賃貸料。

・寄附金・一般寄附金1万5千円・ふるさとまちづくり寄附金17万円。

・選挙費補助金9万9千円。

・旧奏鳴館エレベーター設置工事負担金、選挙権年齢引き下げに係る情報センター委託料、過年度過誤納還付金560万円など。

・商工費補助金445万5千円は、SUWAブランド創造事業、信州ビーナスライン連携広域観光事業、信州シルクロード広域観光事業。

・防犯灯設置補助金はLED化への対応。

《賛成討論》

・交付税措置のない町債の繰上償還は高く評価できる。

・本補正予算は、全て適正と理解する。

《採 決》 挙手全員で可決。

【生活文教常任委員会】

・湖周行政事務組合への負担金は人事異動に伴うもの。

・博物館への寄附金10万円

《賛成討論》

・湖周行政事務組合への負担金の補正は、時期を適正に対応してほしい。

・博物館への寄附金は、照明のLED化ができありがたい。

《採 決》 挙手全員で可決。

一目でわかる議決結果 12月定例会

議決結果

議案第59号	固定資産評価審査委員会委員の選任について	同意(全員)
議案第60号	人権擁護委員候補者の推薦について	同意(全員)
議案第61号	専決処分事項の承認を求めることについて(専決処分第8号) 平成27年度下諏訪町一般会計補正予算(第5号)	可決(全員)
議案第62号	平成27年度下諏訪町一般会計補正予算(第6号)	可決(全員)
議案第63号	下諏訪町行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に基づく個人番号の利用に関する条例の制定について	可決(多数)
議案第64号	下諏訪町被用者年金制度の一元化等を図るための厚生年金保険法等の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例について	可決(全員)
議案第65号	下諏訪町勤労青少年福祉法等の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例について	可決(全員)
議案第66号	下諏訪町議会の議決に付すべき事件に関する条例の一部を改正する条例について	可決(全員)
議案第67号	下諏訪町税条例等の一部を改正する条例について	可決(全員)
議案第68号	下諏訪町国民健康保険税条例の一部を改正する条例について	可決(多数)
議案第69号	下諏訪町観光施設に関する条例の一部を改正する条例について	可決(全員)
議案第70号	下諏訪町水道事業及び下水道事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例について	可決(全員)
議案第71号	町道路線の一部廃止について	可決(全員)
議案第72号	下諏訪町星ヶ塔遺跡管理道の認定について	可決(全員)
議案第73号	下諏訪町老人福祉センターの指定管理者の指定について	可決(全員)
議案第74号	諏訪湖時の科学館儀象堂の指定管理者の指定について	可決(全員)
議案第75号	八島ビジターセンターあざみ館の指定管理者の指定について	可決(全員)
議案第76号	第7次下諏訪町総合計画基本構想の策定について	継続審査
議案第77号	平成27年度下諏訪町一般会計補正予算(第7号)	可決(全員)
議案第78号	下諏訪町庁舎耐震補強及び大規模改修工事請負契約の変更について	可決(全員)

陳情審査結果

平成27年陳情第12号	介護労働者の処遇改善及び人員配置基準の改善を求める陳情	趣旨採択(多数)
-------------	-----------------------------	----------

意見書案議決結果

平成27年意見書案第11号	介護労働者の処遇改善及び人員配置基準の改善を求める意見書	可決(全員)
---------------	------------------------------	--------

12月定例会議案等賛否一覽

※議案等について、賛成、反対の双方があった場合のみ表示しています

議員名(議席順)	議決等結果	中村奎司	津金裕美	宮坂徹	田嶋彰	林元夫	青木利子	河西猛	森安夫	中村直亮	金井敬子	中村光良	藤森スマエ	小池忠弘
議案第63号	可決(多数)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	×	×
議案第68号	可決(多数)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	×	×
平成27年陳情第12号	趣旨採択(多数)	○	×	○	×	○	○	○	○	○	×	○	×	×

趣旨採択に対する賛成者は「○」とし、反対者は「×」とします。議長は採決に加わらないため、「斜線」としています。

一 般 質 問

下諏訪町議会においては、12月定例会に限り、届け出によるグループ質問が可能です。共通する課題や予算要望等について、効率的に質問できることを狙った「議会改革」の一つとして導入されたものです。グループ質問の時間は2人まで120分、1人増えるごとに30分が追加され、180分が上限です。

本定例会では、日本共産党が3人でグループ質問を実施し、9人が単独質問を行いました。

- 4-5P 日本共産党（金井 敬子議員、小池 忠弘議員、藤森 スマエ議員）
- 6P 青木 利子議員、河西 猛議員
- 7P 森 安夫議員、中村 光良議員
- 8P 田嶋 彰議員、林 元夫議員
- 9P 津金 裕美議員、宮坂 徹議員
- 10P 中村 直亮議員

尚、下諏訪町議会ホームページ内の下記URLで、インターネットを利用した議会中継の録画配信を行っておりますので、ぜひご覧ください。

<http://www.town.shimosuwa.lg.jp/gikai/gikaichukei.html>

また、図書館では録画記録のDVDの貸し出しも行っていますのでご利用ください。

《グループ質問》 日本共産党

子どもの医療費

18歳まで無料化



金井敬子 議員

町総合計画と 地方版総合戦略

Q 議案として上程された「第7次総合計画」と並行して、検討が進められている「地方版総合戦略」の策定協議の進捗状況や今後の予定、その内容は。
A プロジェクトの中間報告で、骨子が示されている状態。各課で検討後、来年度に入り、議会にも示していく予定。①雇用②人の流れ③結婚・出産・子育て④活性化の四項目で、まとめていく。

Q 第7次総合計画の目標年次となる平成37年の目標人口1万7,7

00人の設定根拠は。

A 各種統計値から、算出。合計特殊出生率を現在の1・49人から1・84人に引き上げること、人口の転出超過を緩和することで、目標人口確保を目指す。

Q 戦略に位置付ける「政策パッケージ」や、財源確保は。

A 具体的な事業は、検討中。財政については、国の新型交付金対象事業がまだ示されていないため、情報を待って検討する。

Q 戦略の全体像を示す「キャッチフレーズ」をつけるべき。
A プロジェクトで検討する。

来年度予算で

町民要望実現を

Q 次々に社会保障の

切り捨てが続き、年金は減る一方、所得も増えていかないのに、各種負担は増えるばかり。昨年4月の消費税の引き上げも、家計を余計に苦しめた。厳しい町民の現状を踏まえ、町民要望の実現を図ってほしい。国保税の引き下げを。

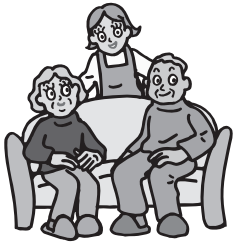
A 厳しい財政の中、引き下げは困難。

Q 足を持たない「交通弱者」対応としての交通体系の拡充を。福祉タクシーの予算枠を拡大し、タクシーの初乗り料金に見合った1枚当たりの補助額増を図るべき。

A ここ数年2千万円を超える現状。今後も、一定の枠内での支援にしたい。

Q 福祉医療の対象年齢の18歳までへの引き上げと、窓口無料化の実現を。

A 高校3年まで対象を拡大すると、町の持ち出しは年間630万



円ほど増額すると試算される。来年度予算において、特色あるまちづくりのための子育て支援策として、実施の方向で検討する。窓口無料化を町単独で実施するのは困難。県に要望していく。

Q 高齢者の入浴料金補助の実現を。

A 老福センターと「ゆたん歩」に限って福祉タクシー券やあざみ号チケットとの振替で実施できないか、検討する。

Q ニーズの多い未満児保育の拡充を。

A 来年度、みずべ保育園での定員増を検討している。

Q 8か月以下の乳児も受け入れて欲しいが。

A 受け入れ月齢は、変えるつもりはない。



藤森スエエ 議員

中学生海外研修 基金設立へ

Q ニュージーランド視察の町長の感想は。

A 初期の目的以上の成果を得られた。3つの学校を視察し、日本にはない「ゼミナール方式」は、生徒にいい刺激になるのではないかと感じられた。また、日本人の留学生にも会え、その意識の高さに感銘した。

Q 来年度から予定している中学生派遣の国際交流事業の具体的な内容は。

A ハミルトン近郊のケンブリッジハイスクールが第一候補。中学2年生、下中、社中あわせて10〜15人を選考委員会で選考し、春休み期間中に10日間程度派遣したい。

Q 費用は。奨学金制度は。

A 金額については今後決定していくが、自己負担は半額程度としたい。この事業のための「基金」を設立し、自己負担を賄えない生徒に利用してもらおう。広く町民に協力を呼び掛けていきたい。

Q 今後、派遣先との友好都市締結等は考えるのか。

A 当面は、一方的な派遣とする予定。

Q マイナンバー通知カードの配達状況は。

A 12月1日現在、9,029通のうち5,777通が未達。配達率は、93・6%。「宛先なし」を除いて、各戸に連絡中。

マイナンバー 運用見送りを

Q 個人番号カード申請の状況は。

A 12月8日までに、712人が申請。

Q マイナンバーの適

用範囲は。

A 社会保障と税に関わる法定事務で、町の条例や規則を改定して使用していくこととなる。来年1月からの運用を開始する。

Q 個人番号カードがなくても、各種手続きは、可能か。

A 可能。

Q 運用前からトラブルが多発しており、訴訟も起きている。中止すべきと考えるが。

A 課題やトラブルは承知しているが、国の定めに基づくもの。正しい運用に、努めたい。



小池忠弘 議員

東京理科大 公立化について

Q 下諏訪町と東京理科大との関係は。

A H14年〜H27年で、当町からの入学者

は49人。H17年〜H26年まで、東京理科大卒業生で、当町に就職したのは29人。

Q 産学連携では、どうか。

A 企業や、ものづくり支援センターでの関わりや観光面でアンケート協力などがある。

Q 公立化により、考えられる町の負担は。

A 「基本的に自治体の負担はない」というのが、大学側の説明。ただし、それは大学に對する国の交付金が維持されることが前提の話。先の見通しは、困難。

Q 町長のスタンスは。

A 「かなり性急な」との感覚を町民はもちただろうが、早急な検討が必要だと思う。諏訪地域唯一の理科系大学であり、学校の魅力アップも含めて、考えるべき課題だと思う。

Q 現在の町内住宅の耐震化率は70・1%。H15年から耐震診断を進めてきたが、改修の補助を受けても自己負担が百万円以上かかることがネックになっている。引き続き、班回覧等で無料診断をお勧めし、改修へ繋げる努力をしたい。諏訪市のような団体による個別訪問等の事例に学び、一歩進んだ取り組みを考える。

Q 地区ごとの防災計画づくりを進め、「ハザードマップ」の全戸再配布をしてほしい。

A 毎年二地区ごと「地域防災計画」作成を進める予定でいるが、一年に取り組む地区数を増やして、早期の全地区での作成を目指す。関心を持ってもらうためにも、地区ごとの「地域防災計画」を配布していく予定でいる。

「防災計画」

早期に全区で

Q 住宅の耐震改修が進まない。どう進めるか。

A 現在の町内住宅の耐震化率は70・1%。H15年から耐震診断を進めてきたが、改修の補助を受けても自己負担が百万円以上かかることがネックになっている。引き続き、班回覧等で無料診断をお勧めし、改修へ繋げる努力をしたい。諏訪市のような団体による個別訪問等の事例に学び、一歩進んだ取り組みを考える。

Q 地区ごとの防災計画づくりを進め、「ハザードマップ」の全戸再配布をしてほしい。

A 毎年二地区ごと「地域防災計画」作成を進める予定でいるが、一年に取り組む地区数を増やして、早期の全地区での作成を目指す。関心を持ってもらうためにも、地区ごとの「地域防災計画」を配布していく予定でいる。

夢や希望を与える

予算に



青木利子 議員

新年度予算と 施策

Q 新年度予算の基本的な考えは。

A 今年度の大型建設事業である庁舎の耐震改修工事の目途がついた。今後は既存の公共施設の維持管理が主になる。現在、第7次総合計画、地方版総合戦略、行財政経営プラン及び行政改革大綱を作っている最中。28年度からは計画に基づいた間違いのない対応が求められている。総合戦略に関わる国の新たな交付金や補助制度も出てくるので、引き続きアンテナを高くして間違いのない対応をして

いきたい。また予算が地域のみなさんに夢や希望を与えられる予算になるよう努めている。

Q プレミアム商品券の効果は。

A 275の登録店舗中224店舗で利用。

Q 新年度での発行は。

A 商店街の活性化は望まれている。商店がなくなるのは、高齢化の町の課題。既存の商店が続けられる支援を商工会議所とともに考えている。商品券の発行は考えていない。

女性活躍するための支援について

Q 県の「しあわせ信州創造プラン」の中に「女性の活躍支援」がある。建築工事の入札参加資格における加点として、「女性技術者の雇用や育児・介護

の両立支援等の導入企業を優遇する。」とあるが、町の対応は。

A 県の入札参加資格審査の独自加点は20項目ある。町独自の加点は3項目で①町との災害応援協定の締結業者への加点②休日水道当番店を受託している業者への加点③町道の除雪または融雪剤を撒く実績を有する業者への加点がある。町内の入札制度研究会で慎重に検討したい。

Q 町長の考えは。

A 人口減少社会において働き手が不足することが予想される今、男だから女だからと言っている時代ではないと思う。率先しているような企業が女性を雇用・活用し、男女が共に働ける社会を目指していくことが大切。町の入札制度については課題をあらかじめしながら検討する。

ものづくり支援 センターの評価



河西 猛 議員

福祉の充実の町を

目指して

Q ものづくり支援センター発足5年の評価は。販売のコーディネーター配置も必要ではないか。

A センターについては、積極的に活動しており高く評価する。新しい視点も出てきた。町として来年度も引き続き支援する。マーケティングは重要でコーディネーターを置くのも一つだが、他の方法も含めて企業ニーズにあった対応をしていく。

Q 社会福祉協議会が

福祉対策の 充実を

行う「買い物、湯めぐり、お墓参り」の各バスの利用状況は。それを、どう評価するか。

A 上半期の利用者は、買い物バスが222人、湯めぐりバスが183人、お墓参りバスは夏のお盆前に実施して4人。利用者が増えれば、町として新たな支援も考える。

Q 町の児童虐待（オレンジリボン運動）の現状は。

A 相談件数はH22、H23年度各3件、H24年度4件、H25年度5件、H26年度7件で全国同様、増加傾向にある。内容は身体虐待、保護の怠慢、心理的虐待など。町では、専用回線「下諏訪町児童・教育相談ホットライン」(27-3204)を設置。相談員が対応し児童相談所や警察、

病院、保健センター、諏訪保健福祉事務所とも連携している。

Q 現役世代の引きこもり対策は。

A 民生委員による担当地区の見守りなど行っているが、実態把握は難しい。中には就労に結び付いたケースもあるが、相談まで至らないことが多い。地域の気付きやつながりを持つことも大切。

儀象堂について

Q 下諏訪歴史体験館（仮称）の構想の経過は。

A 11人で構成する「下諏訪歴史体験館プロジェクト」を立ち上げた。儀象堂を中心に、歴史民俗資料館、埋蔵文化財センター（仮称）、青塚などの歴史遺産を含めたエリアを一体的に、町の歴史を感じられるよう整備していく目的。今年度内に方向を示したい。

空き家対策、 移住・定住の促進は



森 安夫 議員

工業製品出荷額の減少要因は

Q 町のH26年工業製造品出荷額は前年比マインス43・5%、128億円の減少となった。町はどう分析しているか。

A 出荷額が大幅に減少したのは、工業統計調査が本社一括提出となったことが主な要因と考えられる。従業員30人以上の集計である付加価値額は15・1%、29人以下事業所の総付加価値額は12%それぞれ上昇した。利益幅にも改善がみられるため、経営や従業員への影響は少ない。

ンター経由の受注率が改善されてきた。町内だけでなく、諏訪圏域全体での「仕事の仲間取引」拡大の成果と考えるが。

A 大変大切な視点と考える。ものづくり推進機構などとも積極的に連携していく。また諏訪ブランド創造事業などにもパイプを太くして係わっていく。

空き家対策は

Q 町内の空き家の状況は。

A 下諏訪町の空き家は別荘など除いて1,480軒、率で14・8%。岡谷市18%諏訪市は20%弱で近隣に比べて低い。

ゴミ、害虫、立木などの生活環境に悪影響を及ぼしている案件が12件あった。3件は対策済。

Q 空き家対策特別措置法が施行されたが、町の対応は。

A 庁内6課の連携体制を整えてあたって

る。来年度からは移住定住促進の専門部署を新設し、空き家対策、就業支援を一元的にできるように体制を検討したい。

皆で雪かきを

Q 降雪シーズンを迎える通学道路除雪支援隊なるものを組織できないか。

また冬季も、湖畔の健康器具の活用やジョギング、ウォーキングができるよう、数か所に雪かきを置いて除雪を促進できないか。

A 町民の自主的な行動に期待したい。ジョギングロードへの雪かきの設置や保管場所、使用上の注意など検討したい。



町の宝を大切に 継続伝承すべきだ



中村光良 議員

町民が毎日使う生活道路整備を

Q 町道の拡幅や延伸は非常に困難な状況にある。町民が毎日の生活の中で安心して使える道路として整備すべきと考える。今年度の整備状況は。

A 参考までに前年度は167件1,433mと、小規模工事では159ヶ所1,380mを整備した。

今年度8ヶ月を経過し、年次計画8件のうち7件が終了または契約済で、残り1件も年度内に実施する。小規模補修も優先順位を見極め迅速に対応する。予算に対する執行率は

計画事業が57%、小規模補修が77%であり全体で64%となっている。各区からの要望219件中、町道関係の137件に対応している。

町の宝を大切に継続伝承すべき

Q 下諏訪の宝はたくさんある。大切に継続伝承されたことが、今大きく光り輝いている。諏訪響は90周年記念展を開催した。町出身者が重要な役割を果たした下諏訪の宝だが。

A 活発な活動が続くよう、練習・演奏会の会場提供や学校とのかわりなど協力する。

Q 黒曜石の星ヶ塔遺跡は取り組みから20年の苦労を積み重ねて国の史跡に指定されて、大きな宝として期待を集めている。整備は。今後改修整備する

埋蔵文化財センター施設で情報発信し、保存計画策定や遺跡活用を取り組みをしていく。

Q 小学生の英語教育は英語特区指定から12年を経た。子供達は目を輝かせて授業を受けており、NLT・担任の指導も特筆ものだ。今後は。

A ネイティブに近い発音を身につけ、児童は授業を楽しんでいる。英語を活用し活かせる機会を多く持ちたい。

Q 赤彦童謡コンクールで第15回表彰式が開催された。既に全国47都道府県からの作品応募を達成している。今年も、1,468点の応募があったという。下諏訪町の大きな宝となっている。今後の取り組みはどうか。

A 学校などとの連携を深めながら、これからも多くの応募を頂けるよう努め継続していきたい。

一般質問

課長!!

下諏訪力 創造の進展に期待



田嶋 彰 議員

期待している。

ただし、維持管理などについて、原材料支給などで支援している例はある。

下諏訪力創造 チャレンジ 事業について

Q 下諏訪力創造チャレンジ事業の交付団体の実績（活動内容）について。

A 2006年度から2015年度までに57事業、約3,240万円を交付した。

今年度は、山吹城周辺の保護活動、夏休み子ども研究所、防災士資格取得等7事業の取り組みを採択している。

Q 期間が終わった後の支援は、受けられるか。

A 同一事業への助成期間は最長3年で、その後は自立した活動に

円、420件。保守点検、清掃、学校給食、施設の管理運営等がある。

メリットは、コストの縮減や実績、経験（専門性）による事業効果がある。

デメリットとしては、職員の人材育成の妨げ、丸投げによる事業の画一化が懸念される。

Q 今後委託する業務として、検討しているものはあるか。

A 現在予算編成中であり、未集計。より質の高いサービス、あるいはコストメリットのあるものや専門性の高いものを委託していきたい。

町の委託業務について

Q 町の業務委託の件数、内容の現状は。委託によるメリット、デメリットを、どう考えるか。

A 昨年度の一般会計決算では、7億9千万



客観的な 事務事業評価の導入を



林 元夫 議員

町対策本部連携は。

A 応援協定もあるし、署長は町の対策本部に入り、連携を密にするようにマニュアル化されている。

Q サイレンはどうなっているか。課題は。

A 大規模な火災等では、サイレンを鳴らす訓練も広域連携して行いたい。

消防活動について

Q 広域消防移行後の消火活動開始時間に違いがあるか。また地域消防団の招集状況は。

A 覚知から消火開始まで、以前も移行後も約9分で変わらない。出動マニュアル改正後招集状況に支障あるとの意見はない。

Q 広域化後の消防団の係わりの変化は。

A 分団が後方支援に廻ることもあるが、消防団の支援は不可欠であり、地域防災にも重要な役割を担っていて変化はない。

Q 大規模災害時の広域連携マニュアルと、

業」については、方向性・ビジョンと気概を持つてほしいが。

A 一本化した係の新設や専門家の導入などを検討する。

Q 「高齢者応援カード」について。

A 事業内容の周知に努め、協賛店舗の拡大にも努力していく。

Q 「観光の振興」について。

A ビーナスラインの導線も意識し、広域連携で通年観光にも力を入れていく。観光振興局などに関してはプロジェクトの中で検討していく。

Q 消防団員の減少傾向は、地域防災にとって深刻だが。

A 定員281人で、今年度259人、確保は厳しい。努力する。

Q 甲府市などで行われている客観的事務事業評価をどう考えるか。

A 外部評価は大切。システム自体を見直していきたい。

事務事業評価について

Q H27年度も半年を過ぎて進捗状況はどうなのかを検証し、H26年度事務事業評価を踏まえた来年度事業を考証していきたい。まず「職員の福利厚生」事業。仕事量の増大に伴い、職員の心身への負担が大きくなっている。

A 適正な人員配置と組織体制も見直す。

Q 「移住対策促進事

艇庫整備、再検討 新プロジェクトで



津金裕美 議員

整備計画について

Q 艇庫、錬成の家の整備計画で新たなプロジェクトを立ち上げた経過は。

A 庁内プロジェクトで検討してH29年度整備を考えていたが、ボート関係者、施設を利用いただけたらと思える方々の意見を聞いて仕切り直した。過去の検討を伝え、新たな発想を加えてほしいとお願いをした。一年かけて協議していく。

Q 町民へのカヌー普及について、来年度の取り組みは。

A 当初、艇庫整備後に諏訪湖でも普及をと考えていたが、艇庫の

ある食べ物を屋台で販売してほしいが。

整備が1年先延ばしになるので、それに伴い遅れる。来年から、本年度購入したカヌー10艇をいずみ湖で楽しんでもらう計画。管理はシルバー人材センター。

「お祭り広場」の進捗状況は

Q 館内の展示物、ジオラマ等も含め工事は順調か。

A 11月末現在、外構工事を含めた進捗率は43%、会館は71%で順調。展示品の「ジオラマ」制作に、学校の協力も得られた。「長持ち」は、長持ち保存会で作成中。「はな乗り」は2月に設置予定。

Q 飲食屋台のイメージは。また、秋の三角八丁で、大変好評を得た地元食材を使用したフードフェスタの試食品等、下諏訪の特色が

ある食べ物を屋台で販売してほしいが。

A 煮炊きのできるブースで、テナントの貸し出しを予定。選定は公募を基本とし、地域の活性化につながることから、地元からの手が挙がることを期待する。食べ歩きできるものが「お祭り広場」で販売されればと思う。地元業者の出店を、促していきたい。

Q 愛称の公表、オープンはいつにするのか。

A 愛称の公募には、332件の応募あり。12月に審査会、1月上旬に公表。山出しと里曳きの間に開館式典ができればと考えている。

御柱祭山出し

Q 全席有料棧敷席となる木落しで観覧者だと識別でき記念にもなる品を用意できないか。

A 3日間分、日ごとに、色を変えたロゴ入りマフラータオルを考えている。

秋宮周辺の体験体感 ゾーンの充実を!



宮坂 徹 議員

歴史体験ゾーン の構想について

Q 構想の基本は「観光」か「教育」か。

A 施設は教育関連が多いが、町を訪れる人に価値の高い歴史文化を見てもらい、修学旅行の体験として利用してもらうことで観光に繋がる。当然地元の小学生や一般の方達にも見てもらおう教育施設として関連付けはできると考える。ただ、できることが限られる点もある。観光消費にどう結びつけるか、管理をどここの課で行うかなどの課題をプロジェクトで検討してもらおう。

Q 観光パンフレット

A 爆発事故等では、一部改正された火災予防条例により対応する。救急では、救護所は山出し4カ所、里曳き2カ所。山出し3カ所には医師等も配備する。また防災ヘリ等の待機も視野に入れ、ドクターカーを配備する。AEDは全救護所に配備し、御柱に着く消防隊員に携行させる。

オレンジネット ワークについて

の作成は博物館とすりあわせをしてほしい。黒曜石は学術研究がしっかりしているので、アウトリーチとして一般に理解しやすくしてほしい。儀象堂との一体化というが、整備はいつか。

A 埋蔵文化財センターの改修工事は28年度に行い、境の塀は撤去するが、儀象堂の整備は29年度以降となる。

Q 観光宣伝とのすり合わせは。

A 時計作りなどは変わらず行い、黒曜石をプラスした宣伝活動は引き続きできる。方向性、名称の検討などしっかりできればオルゴール記念館の愛称とともに29年度にはパンフレットもできると思う。

御柱祭について

Q 防災・救急対策は。

Q 開始して一か月余となるが、登録者、協力機関の登録件数は。

A 登録者はゼロ、協力機関の登録は11件。

Q 周知はどのように。

A 広報、新聞、ケアマネジャー等で周知。

Q もっと理解してもらうことが必要ではないか。課題は。

A 登録者数を増やすことも大事だが、協力機関登録も必要。更にその先で自主的協力機関の登録もあればよい。

限られた資源の有効活用について



中村直亮 議員

駅周辺の再開発

Q 限られた平らな場所を活かすため、駅周辺、特に友之町駐車場の再開発と駅南口の整備を行い、これまで何十年も行つてこなかった「人の住む環境」の整備をして外から人を呼び込む一つの呼び水としてはどうか。

A 友之町駐車場は現在観光等に有効利用されており、特段再開発する必要はない。また、国道に面した駐車場入口は借地であり、再開発は困難。駅南口に関しても費用の面から取り組みは困難。

「ボートの町下諏訪」の普及

Q 長野県下に唯一の中学校ボート部がある下諏訪町。2020年オリンピックに向け、全町的にボートを盛り上げる方法として、下中・社中で全校クラスマッチを行い、父母や祖父母にもボートに関わってもらう機会を作ってみてはどうか。

A カリキュラムの過密さ、移動時間等の理由でクラスマッチ実施は困難。ただ、県内唯一の中学校ボート部を有する下中と社中との合同チームを組むことは可能。

赤砂崎防災公園の有効活用

Q 広大でロケーションも良い赤砂崎が、防災公園機能だけではもったいない。限られた資源の有効活用を検討すべき。

A 既設の自然エネルギー活用施設以上の整備は、都市公園法の制約もあり難しい。

もぐりセンターの今後

Q 設立5年目の節目を迎えているが、あまり芳しくない状態ではものづくり支援センターに対する今後の支援を、どう考えているか。

A 現時点で独立採算は困難。今後補助金等により、支援していく。

一人暮らし世帯への対応

Q 諏訪圏域で最も高齢化率が高い町として、全国的にも課題とされる独居老人等への対応にどう取り組んでいるか。各種制度の周知不足を感じるため、今後の対応をお願いしたい。

A 緊急通報装置貸出、配食サービス等によるサポートサービスを実施している。

陳情、意見書の審議結果

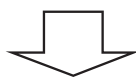
陳情第12号

介護労働者の処遇改善及び人員配置基準の改善を求める陳情

超高齢社会を迎える中で、介護労働者の人材確保・離職防止策は喫緊の課題となっていますが、介護保険制度の開始当初から言われていた介護職員の「低賃金・過重労働」の実態は改善されないままです。

介護労働者の人材不足は地域の介護施策にも深刻な影響を与えるため、国の責任において、介護現場で働くすべての労働者の処遇改善と人員配置基準の改善を求める意見書の提出を求める内容です。

「採択すべき」の意見も出されましたが、「国の介護報酬改定が今年4月に行われたことから、今暫く経過をみたい」、「陳情者の説明と陳情資料との間に、整合性のとれない表現があった」などの意見が多数を占め、「趣旨採択」となりました。



意見書案第11号

介護労働者の処遇改善及び人員配置基準の改善を求める意見書

議員提案されたもので、介護労働者の人材確保・離職防止策として、

1. 介護職員をはじめとする、介護現場で働くすべての労働者の処遇改善を図ること
2. 介護保険施設の人員配置基準を見直すこと
3. 上記の項目の実現を図るため、国費で費用を賄うこと

の3点を、国に求める内容です。全会一致で可決しました。

教育委員との懇談会を開催 親の考え方、接し方により子どもは変わる！ 子どもと一緒に地域に出よう！



司 会

生活文教常任委員会委員長 青木 利子

出席者

教育委員長 小松 裕子
同職務代理 久保田利広
委員 今井 仁志
委員 関 眞知子
教 育 長 小沢 貞義

出席議員

中村 奎司
小池 忠弘
中村 光良
津金 裕美
宮坂 徹
田嶋 彰
林 元夫
河西 猛
金井 敬子
藤森スマエ

去る11月9日に教育委員との懇談会が行われました。この懇談会は「開かれた議会」を目指し、各種団体と議会の情報共有・意見聴取を目的としています。去年は総務経済常任委員会の主催で、下諏訪商工会議所との懇談会が開催されました。

今回の懇談会は、生活文教常任委員会が主催し、小沢教育長及び小松教育委員長をはじめ教育委員4人の参加をいただきました。懇談会の中で意見交換された内容の一部をご紹介します。

●下諏訪町の教育現場の今

元気な子ども達。学校もオープンなイメージ

- ・参加者が自己紹介で、自らが感じている事を出し合う中に、「子どもたちから進んであいさつできることは素晴らしい」、「昔に比べて、学校もオープンなイメージが強くなった」、「学校の先生たちも、地域との関わりを大切に考えてくれていて、頼もしい」、「地域連携も、随分進んでいる」などの意見が多数出されました。
- ・「教育の未来を語る会」への多くの町民の参加は、意識の高さの表れでは。



●家庭の役割

子どもの育ちには、まず「家庭」が大事。最近の子ども達の「コミュニケーション力」不足を解消するためには、保護者の意識づけも大切か

- ・「コミュニケーション力をつけるためには、幼児期に目線を合わせる必要があること」や、「幼児期における読み聞かせが学習力向上に有効」等の情報を、様々な機会を通して、保護者に届けていくことが大切では。
- ・スマホに夢中になり、相手を見て話をしっかり聞かない傾向は、子どもだけでなく、保護者側にもあり、大きな問題では。



●地域の関わり

「子ども達を育てる」意識での、地域と学校の双方向の関係を持つ努力が必要。そこに、保護者が積極的に関わる事が課題では

- ・地域と学校の行事、企画の周知や参加協力を呼び掛ける取り組みの実践事例の紹介。
- ・三角八丁等での地域連携の経験の紹介。
- ・地域の防災訓練などへの子どもたちの参加の可能性もある。
- ・子ども達の部活動も、地域の方々の協力で支えられている部分が多く、今後も尚一層、協力が求められる。

視察研修を行う

●●● 尾道市・廿日市市
●●● 流山市・木更津市・調布市

総務経済常任委員会では、
11月4日から6日、広島県尾道市、
廿日市市を視察研修しました。



尾道市歴史的風致維持向上計画の取り組みを視察

未来につながる街づくり

総務経済常任委員会 副委員長 中村 直亮

尾道市

一、歴史的風致維持向上計画に基づく空き家再生の取り組みについて
平成24年6月認定を受けた歴史的風致維持向上計画についての説明を受け、その後「尾道絵のまち通り商店街」を視察した。

尾道市は、平成27年度に創設された「日本遺産第1号」として認定され、魅力溢れた歴史文化資源の継承が市民と協働しながら取り組まれていることが高く評価されている。

尾道市の施策としては、重点区域内の歴史的建造物・工作物等の外観修理、変更等の整備をする補助金や「空き家再生促進事業補助金」、「老朽危険建物除却促進事業補助金」等の交付要綱を定め助成しているとの説明を受けた。また、「尾道絵のまち通り商店街」を歩き、商店の空き家再生の取組状況を見学した。

行政サイドは補助金を中心とした促進事業を行い、現地では民間サイドの取り組みが中心となっており民間主導の重要性を再認識した。

二、サイクリングを活用した
観光振興の取り組みについて

しまなみ海道に併設された総延長約70kmのサイクリングロード等を活用した取り組みについて説明を受けた。レンタサイクル事業、サイクルオアシス事業、島走レスキュー事業等については先行投資としての位置づけであるため採算ベースで厳しい面もあるとのことだが、「尾道」という名称が持つブランド性に捉われず、また現状に甘んずることなく、「次の手」の模索に官民協働で取り組むことの必要性を学ぶことができた。



尾道市絵のまち通り視察

廿日市市

一、協働によるまちづくりについての
取り組みと評価について

廿日市市は、平成15年に佐伯町・吉和村と、17年には大野町・宮島町と合併し、住宅都市から過疎地域、国際的な観光地を擁する五つの市町村から成り立っている。平成24年4月1日施行の『協働によるまちづくり基本条例』制定に至る背景と経過また協働によるまちづくりの現状と課題について説明を受けた。現状で

は、住民や職員の意識に目立った変化は見られないものの、今後徐々に醸成するのではないかとと思われる状態であった。目標とする「偶像」をこれから「本物」へと変えていく段階であり、計画実現に移行していくことの難しさを再認識することができた。



廿日市市役所で協働による街づくりを視察

二、世界遺産（宮島、厳島神社）を活用した観光拠点づくりについて

「日本三景だけで終わらない旅へ」のように、滞留時間を増やし通年観光につなげ、外貨の獲得を目指すためにはどうしたら良いのかという下諏訪町と共通の悩みを抱えていることが分かった。

世界遺産登録後、観光客数は増加しているものの、宿泊施設は少なく、修学旅行等による宿泊は近隣の広島市へ、という人の流れが完成しており、当市が通過地点となっている現状について説明を受けた。島内は過疎化が進んでいるということで、下諏訪町同様、課題は明確であるが決定的な対策策定に至っていない。

2 常任委員会が

総務経済常任委員会
生活文教常任委員会

生活文教常任委員会では、10月26日から28日、千葉県流山市の江戸川大学、木更津市、調布市の「クリーンプラザふじみ」の三カ所を視察研修しました。



江戸川大学で説明を受ける

子育て支援を模索

生活文教常任委員会 副委員長 宮坂 徹

江戸川大学

地域とつながる大学

一、流山市との協定に至る経過

- 平成17年3月に図書館利用について協定が結ばれ、大学図書館が市民に無料開放。7月、「流山新市街地区安心安全まちづくり協議会」の座長に江戸川学園の総合福祉専門学
校久保校長が就任。平成19年8月、
学校法人江戸川学園と流山市の間で
相互協力の包括協定が締結された。
- 二、協定による、事業と推進状況
- ① 大学図書館との相互協力
- ② 「流山グリーンチェーン戦略」への協力
- ③ 各種開催事業への協力
- ④ 市民向け公開講座の実施
- 三、えどがわ森の保育園について
- ① 保育園開設までの経過
平成22年、市からの強い要請を受け、社会福祉法人を設立。平成23年
えどがわ森の保育園開園。
- ② 運営と特色
・敷地は江戸川大学内。遅く生き
る力を持った子供を育てることを
目指す。建物は木造平屋建。

・特色は、学校法人と連携した形で

の運営。高校生・専門学生・大学生が子供たちと関わる「体験学習」や大学でのフィールドワーク「研究対象としての関わり」。

木更津市教育委員会

特色あるまなび支援センター

一、幼児期から青年期までの一貫した子育て支援策について

- 市教育委員会では、教育センター、青少年補導センター、幼児言語センターを統合して、平成19年に「まなび支援センター」を開設。相談業務を核にした幼児期から青年期までの一貫した子育て支援活動を行う。
- 二、まなび支援センターの事業内容について

・教育相談教室

- ・子供・保護者・学級担任が対象
- ・精神科医、臨床心理士、言語聴覚士を配置
- ・学校適応教室「あさひ学級」
不登校児童生徒に対する原籍校復帰支援
- ・青少年・子育て相談
社会教育指導員による相談活動
- ・青少年補導員



市のシンボル証城寺のタヌキ

定期街頭指導、地区街頭指導、特別街頭指導、J-R乗車マナー指導
・幼児言語教室
学校就学準備のための相談・指導

クリーンプラザふじみ

市街地に建設

一、建設までの経緯について
・市民参加による事業の推進
平成11年
三鷹市・調布市「新ごみ処理施設整備に関する覚書」を交わす。16
年検討委員会設置、18
年整備基本計画アンケート実施、「施設整備市民検討会」を設置。21
年落札者決定。22年から25年建設。
- 二、合意に至るまでの近隣住民対応について
建設用地が市街地であることから反対運動が起きる。市民参加による事業の推進として、検討委員会設置に反対派からも委員を出す。ふじみ新ごみ処理施設整備市民検討会設置し、こまめな説明会の実施、建設段階から「ふじみ衛生組合地元協議会」を設置、会長は市民から選出、委員は市民25名。



クリーンプラザにて

ニュージーランドを視察 グローバルな人材育成に大きな期待

藤森 スマエ

10月末、来年度から予定されている中学生の語学留学先の候補地であるニュージーランドの視察に、中村奎司議長と藤森スマエ議員が参加しました。その様子を、藤森スマエ議員に報告いただきました。

自然あふれる環境

日本からオークランド国際空港までは、11時間のフライト。時差は4時間、気温は最低8度、最高24度で過ごしやすい気候です。

ニュージーランド最大の都市オークランドから、約3時間のロトルアという都市で、2つの学校を視察しました。ロトルアは温泉もある自然豊かな湖畔の町で、下諏訪に似た感じを受けました。

1校目は、ウエスタン・ハイツ・ハイスクール。13歳〜17歳の生徒約1,500人の学校です。別府市と姉妹都市であることから、学生の交流もあるとのこと、留学生約50人の内、10人が日本人。日本人留学生の二人が先生と一緒に校内を案内してくれました。日本と違って「クラス」がなく、専攻科目毎に生徒は教室を移動します。5、6人しかない教科もあれば、20人近くいる教科

もありましたが、座席も自由で、好きな席に好きな格好で座っている風景には、ちょっとビックリ。
2校目は、ロトルア・インターメディアイト・スクール。11歳〜12歳の生徒約650人の公立学校で、世界中の情報を入手して研究しているという、これも生徒がかなり自由に動き回っている印象を受けました。



ロトルア・インターメディアイト・スクール

受け入れ体制も 大きな条件かも

ロトルアから少し離れたハミルトンに在る、ケンブリッジ・ハイスクールが3校目の視察校でした。13歳〜17歳の生徒約1,400人が学び、日本人留学生も10人ほどとのこと。留学生の受け入れを、早くから行

っており、個々の留学生のニーズに合わせて様々な講座が行われていて、留学生担当者は日本滞在経験もあり、かなりの親日家でした。学校だけでなく、ホームステイ先の家も案内していただき、どのような環境でお世話になるかを知ることができ、安心した次第です。

熊本から私費で留学している学生は、「安心して学べる、とても良い処です。英語を学ぼうとして来るなら、日本人同士と一緒にいてはダメ。一人でしつかり、英語力をつけていくことが必要です」と、言っていました。



ケンブリッジ・ハイスクール

下諏訪で身につけた英語を活かし、積極的に日本を飛び出し世界を見て成長する場にしてほしいものです。中学生の語学留学を、私も大いに応援していきたいと、思っています。

津金裕美議員 自治功労賞受賞

この度、津金裕美議員が、町議会議員として10年以上在籍し地方自治の振興に功労があったとして、長野県町村議会議長会から「自治功労賞」を受賞されました。



表彰される津金裕美議員

12月議会開会日に、議場にて表彰状を伝達授与された津金裕美議員は、「感慨もひとしお。今後も、町民の幸せのために、全力を尽くしたい」と、述べました。

ご意見・ご感想を

お寄せください

「議会だより」へのご意見・ご感想をぜひお聞かせください。

第七次下諏訪町総合計画基本構想が上程される 地域コミュニティを核とした住民参画と協働を推進 新たに健康を意識して

まちづくりの基本理念を未来・自然・ひと・健康・活力・くらしの6項目とした、第七次下諏訪町総合計画基本構想が12月定例会に、議案第76号として上程されました。議会としては、下諏訪町での最上位計画であるため、特別委員会を組織し、時間をかけて審議していきます。

基本構想では、町が誇るかけがえのない「宝」に磨きをかけ、固有の資源を最大限に活かしながら、地域コミュニティを核とした住民参画と協働推進により「住んでみたい、住み続けたい、住んでよかった」という人々の願いの実現をめざしたいとしています。特に高齢化を意識して「健康」を構想に盛り込んでいます。

未来 力を合わせて未来を拓くまちづくり
自然 自然の恵みを大切に作るまちづくり
ひと 優しさと生きがいをもつひとづくり
健康 絆で支え合う健康長寿のまちづくり
活力 産業の活力と賑わいのあるまちづくり
くらし 安心安全で暮らしやすいまちづくり

この6項目の基本理念により、基本構想が構成されています。関連資料として前期基本計画(案)で、より詳細の計画が示されています。

町総合計画基本構想

第1編	将来図	
第1章	基本理念	
第2章	将来人口	
第3章	土地利用構想	
第2編	施策の大綱	
第1章	力を合わせて未来を拓くまちづくり	未来
第1節	人口減少対策の実行	
第2節	協働・参画の強化	
第2章	自然の恵みを大切に作るまちづくり	自然
第1節	自然環境の保全	
第2節	農林漁業の育成	
第3節	町土の開発と保全	
第3章	優しさと生きがいをもつひとづくり	ひと
第1節	世代ごとの支援と伝承	
第2節	広く豊かな感性の育成	
第3節	総理解と共生の実現	
第4章	絆で支え合う健康長寿のまちづくり	健康
第1節	健康長寿への挑戦	
第2節	地域と人の支え合い	
第5章	産業の活力と賑わいのあるまちづくり	活力
第1節	産業の振興と発展	
第2節	活気と賑わいの創出	
第6章	安心安全で暮らしやすいまちづくり	くらし
第1節	災害への備え	
第2節	安心安全の取組み	
第3節	生活基盤の整備充実	
第4節	暮らしやすさの向上	

十二月定例会にて

二つの特別委員会立ち上がる

議会開会日の12月3日、下諏訪町基本構想審査特別委員会と、広報特別委員会の2つの特別委員会が設置されました。

下諏訪町基本構想審査特別委員会は、議案として上程された「第七次下諏訪町総合計画基本構想の策定について」を、三月定例会までに審査する委員会です。委員長に小池忠弘議員、副委員長に森安夫議員。委員は宮坂徹議員、林元夫議員、中村直亮議員、藤森スマエ議員です。尚、

中村奎司議長は、特別委員会にオブザーバーとして参加します。

広報特別委員会は、これまで任意の委員会だった「議会だより編集委員会」を、特別委員会として定めたもので、「議会だより」をはじめとする議会広報一般についての役目を担うものとなります。委員長に金井敬子議員、副委員長に林元夫議員。委員は宮坂徹議員、森安夫議員です。尚、中村奎司議長と小池忠弘副議長が、オブザーバーとして参加します。

議会改革の一環として

「議員学習会」開く

議員の資質向上を図り、議員間での意見交換も積極的に行える議会を目指そうとの目的で、11月24日、全議員参加での「議員学習会」を開きました。

先進的な事例の中で、当町でも取り組める事はないか等、皆で考える機会となりました。

この間行われた、各常任委員会の視察研修の報告を受けての意見交換では、これまで議会全員協議会で副委員長からの短時間の報告を受けるだけでは、なかなかできなかつた議員間の情報の共有もできました。視察研修で学んできた

での経過や内容、「大規模災害時の議会対応」、「グループ(届け出による)質問」についても、経験議員が説明をし、理解を深めました。

今後も、適宜このような学習の場を持ち、更に質の高い議会を目指します。

議会雑感



農業即売会会長
小口 信太郎

農業と他産業の連携

私は7年前から町内で農業を営んでいます。夏場にキュウリを中心に市場出荷のほか、町の農産物即売会の朝市や近隣の直売所、量販店の青果売り場で販売をしています。朝市では本年より会長を拝命し運営に関わり、朝市ばかりではなく産業としての農業の課題が見えてくるようになりました。

朝市についてはここ数年での利用者の減少、知名度や若年利用者の取り込み等があります。これについては開催期間や時間、場所や出店方法などソフト・ハード両面で会の皆さんや担当課の方と検討を進めていければと思います。

町の農業の課題は従事者の高齢化並びに後継者の不足、農地集約や果樹以外の特産品の不在、新規販売ルートの開拓等があります。

これについては町の人口対策や働く世代の住みやすさ、農業以外の製造や販売といった他産業との連携など、作る側、利用する側の両面から課題にあたっていくものであると考えています。

下諏訪町は自然や歴史に恵まれた土地です、観光との連携なども今後期待したいところです。

編集後記

新年あけましておめでとうございます。昨年自然災害が多い年でしたが、今年も穏やかな一年でありますようにと願っております。御柱の年を迎え諏訪の平はお祭り一色の年になるでしょう。

今町では将来の10年間の方向付けとなる、第7次総合計画の基本構想の検討が行われています。著しい人口減少、大規模災害などの危険の中で将来にどんな絵

を描くのか、町民の英知が求められています。困難を乗り越え、夢と希望にあふれた町になるよう切望します。



昨年4月の町議会選挙から、3回の議会が終わりまりました。開かれた議会にしようということでも新旧議員それぞれ奮闘しております。

議会だよりも記念の第10号になりました。1月29日には議会報告会が行われます。多くの皆様にご参加いただき、ご意見を寄せて頂ければと思います。

本年の皆様のご多幸を心よりお祈り申し上げます。(Y・M)

- 議会だより編集委員
- 委員長 金井 敬子
 - 副委員長 林 元夫
 - 委員 宮坂 徹
 - 委員 森 安夫

議長のつぶやき

取り留めなく想いを尽くし

議長 中村 奎司

新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。お正月はゆっくり休まれたでしょうか。我が家では暮れに娘たち夫婦・三人の孫が集まり、「お年とり」をしました。その料理での推奨は私の作った「鮎のすずめ焼き」。一年に一回だけ私が作る料理で、開いて素焼きされたすずめ焼きを買ってきて、二度揚げしてからザラメ・酒・しょうゆを合わせたタレを程よく熱して

結める、それだけの簡単な料理です。

が、油はだめになる、周りは汚れるので、女房には有難迷惑？

でも、これが美味しくて評判いい。子供たちだけでなく、酒の飲めない孫娘（中二だから当たり前）も喜んで食べてくれます。「じいじの料理おいしい」と。早く一緒に酒を飲みたいな。



十二月議会が終了いたしました。共産党議員団の代表質問を含め、全員が一般質問を行いました。又通常

審査のほか、第七次総合計画基本構想の審査が上程され、継続審査となりました。

今後十年の方向性を定める、極めて重要な審査と位置づけ、常にも増して緊張感をもって対応いたします。

さて今年には御柱の年であります。お祭本番に向けて町内各地区での綱打ちも始まり、御柱祭を迎える準備

が着々と進められていることと思えます。皆様それぞれのお立場で、諏訪人の心意気と熱気を全国に向けて発信していただき、下諏訪

町を全国の皆さんに知っていただく絶好の機会になることを期待しております。本年の皆様のご多幸を、心よりお祈り申し上げます。

議会報告会開催のお知らせ

日時：平成28年1月29日(金) 19時00分～
場所：下諏訪総合文化センター

今年は皆様の声をテーマごとにお聞かせください。

テーマ：産業・観光、教育、防災、福祉